

ま と め

1. 検討の成果

(1) これまでの検討経緯

平成 26 年度に策定された「小山市まちづくり総合交通戦略」を受け、高岳引込線を活用した新交通の導入に関する検討を継続実施するため、平成 27 年度に「小山市まちづくりと新交通の導入に関する検討委員会」と、委員会の中に所掌事務を専門的に検討する「まちづくり部会」「新交通システム部会」を設置し、平成 28 年度までの 2 ヶ年にわたり、導入効果や実現可能性をまちづくりと一体的に検討を重ねてきた。

(2) 検討の成果

まちづくりの検討成果として、沿線全世帯アンケートや企業等へのヒアリング調査を実施し、沿線住民や市民、企業等が抱く路面電車や沿線まちづくりのニーズを確認し、路面電車の導入を視野に入れた沿線地区のまちづくりの基本的な方向性をとりまとめた。

新交通の検討成果としては、計画条件の整理を踏まえ、鉄軌道系の貨客併用の交通システム導入に向けた導入計画の検討を行った。具体には沿線住民等へのアンケート調査を基に、新たな公共交通システムとして路面電車（低床車両等）を想定し、路線延長は約 4.8km（小山駅付近から県道 33 号線手前まで）、停留所は 9 駅（概ね 600m 間隔）、往復利用者数は 4,660 人/日（概算需要 2,330 人/日の 2 倍、沿線住民＋企業＋高専）、概算事業費は約 19.8 億円から 27.3 億円と試算した。

また、既存の鉄軌道事業者の運行実績、運賃均一 200 円/人等の一定の条件設定に基づく収支採算性を確認したところ、採算が確保できることを確認し、整備効果についても利用者・沿線住民・沿線企業等への効果に加え、社会・経済・環境等への効果を確認できたが、まちづくりと新交通それぞれについて、実現化に向けた課題が明確になった。

2. 推進体制

まちづくりと路面電車は相互の熟度によりお互いのあり様に影響し合うものであり、今後も両輪一体となり、残された課題の解決を目指す必要がある。

高岳引込線沿線地区のまちづくりと新交通（路面電車）の取組と連動し、産・学・官・民の多様な関係主体が連携しながら取組を進めていく必要がある。

そのための協議・調整の場（プラットフォーム）として、「小山市地域公共交通会議」を拡充し、新交通（路面電車）の具体化に向けた検討と合わせ、今後策定を予定している立地適正化計画と調整を図りながら、まちづくりの実現に向けた具体的方策の検討や役割分担の調整などを行っていく。

（1）まちづくりの進め方

おおむね 20 年後の地域の姿を展望し、関係機関との調整や協議を図りながら、本地域のまちづくりに関わる多様な主体の参画のもと、新交通（路面電車）の取り組みと連携しながら、以下のように段階を踏んで取り組んでいくものとする。

ゾーニング	取組の方向性	実施主体				スケジュール			
		産	学	官	民	短期	中期	長期	
拠点	小山駅 ゲートウェイ拠点 ～小山駅の玄関口 として駅東西をつなぐ～	<ul style="list-style-type: none"> 白鷺大学の東キャンパスの食堂施設の開放や公開講座等の実施 		○			■		
		<ul style="list-style-type: none"> ロブレ内の教育研究拠点・宇都宮大学サテライトプラザの活用 		○	○		■	■	■
		<ul style="list-style-type: none"> ロブレ内の子育て支援施設「キッズランドおやま」の活用 			○	○	■	■	■
		<ul style="list-style-type: none"> 小山駅東口周辺の低未利用地に集合住宅を整備 			○	○	■	■	
	多世代が集う 交流拠点 ～まちに活力と多様性を 与えるコミュニティと知 の拠点化～	<ul style="list-style-type: none"> 多様な世代や業種の交流を支える複合機能の誘導 施設例 ・商業機能：飲食・物販 ・健康・コミュニティ、研究・業務機能：地域交流センター、医療・福祉施設、軌道敷治いの遊歩道等		○	○	○	■	■	■
		<ul style="list-style-type: none"> 交通情報や地域情報を発信する案内機能の導入 			○		■	■	■
都と農の 交流拠点 ～郊外部や東光高岳に近接 する立地特性を活用～	<ul style="list-style-type: none"> 小山産の野菜等を活かした“食”を楽しめる民間施設等の誘導 施設例 ・健康・コミュニティ、商業、宿泊機能：農園レストラン、農家民宿			○	○	■	■	■	
	<ul style="list-style-type: none"> 貨物や路面電車の車両を見学できる施設の整備・誘導 			○		■	■	■	
エリア	地域に開かれた スマート工場 エリア ～ものづくりからの 環境戦略～	<ul style="list-style-type: none"> 未来を担う子どもたちや学生、その教育に携わる教員との交流促進 	○				■	■	■
		<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動の推進 	○				■	■	■
	住宅団地 リノベーション エリア ～新交通への徒歩圏立地 を活かした居住地創出～	<ul style="list-style-type: none"> スマート戸建住宅団地の整備 施設例 ・居住機能：住宅団地（スマートタウン）			○	○	■	■	■
		<ul style="list-style-type: none"> 小山東ニュータウンの住環境の維持・向上 		○	○	○	■	■	■

凡例	
■■■■■▶	継続実施
■■■■■	実施

(2) 新交通の進め方

さまざまな課題の解決に向けて、今後ステップを踏んで取り組んでいく。

コミュニティバス等の沿線地域全体の公共交通のあり方や、新交通（路面電車）導入による道路交通への影響を踏まえながら、新交通（路面電車）の運行計画等検討を具体化・深度化し、導入に向けた関係者との合意形成を図っていく。

